

## 暑中お見舞い申し上げます

先日の大雨による水害で、被害を被った皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

さて、はばたき福祉事業団が社会福祉法人として認可されてから、今夏で14周年を迎えます。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、病状悪化や生活困難がより一層深刻になってきている被害患者に多様な支援を行っていく必要があります。特に病院への受診回数が減ったり、必要な検査が延期になったりすることもある中、救済医療が適切に行われるよう国に求めています。また、被害患者がひとりも残らず安全、安心な暮らしを送っていくことができるよう、併設施設の設置が課題となっており、支援団体として力強く取り組んでいきます。遺族への支援としては、対面での支援が難しい中、遺族相互支援事業によるアンケートのお尋ねや布マスクの作成・送付などを行い、つながりを広げています。

これから暑さも厳しくなっていきます。体調管理や災害への備えなどに気を付けてお過ごしください。

## 大平勝美前理事長が逝去されました

社会福祉法人はばたき福祉事業団の大平勝美前理事長は、かねてより病氣療養中でしたが、去る6月21日に永眠致しました。生前に賜りましたご厚誼に、心より感謝申し上げます。大平前理事長は若い頃から患者会（東友会）の中心的存在として活動され、全国での血友病医療費の無償化を進めたほか、薬害裁判後は被害者救済のみならず、HIV陽性者への障害認定やHIV医療体制の整備などにも尽力し、HIV陽性者が安心して医療を受けられる体制を作り上げました。

ご遺族からの家族葬とされたいとのご意向で、お通夜・告別式のご案内は広く告知せず、限られた方にさせていただきましたが、お通夜・告別式には300名を超える方々にご列席いただきました。また、たくさんのご供花や弔電も賜りました。ここに、謹んで御礼申し上げます。

後日、時機をみて、お別れの会を開催したいと考えております。開催が決まりましたらご案内いたしますので、よろしく願い申し上げます。

## 新理事長就任 ご挨拶 (武田飛呂城)

このたび、6月30日付で社会福祉法人はばたき福祉事業団の理事長を拝命いたしました。

生前の大平前理事長は、人の命を救うため、何を置いても行動し続けた信念の人でした。

現在、薬害エイズ被害患者の最年少は37歳になります。HIVは抗ウイルス薬により管理できるようになったと思われていますが、その実、慢性炎症が続いていることや、様々ながんの発生など、多くの合併症が起きていることもわかってきています。また、遺族は、大切な人を亡くした悲しみや痛みは時間の経過によっても癒えることはなく、その思いに寄り添っていく支援が必要です。こうした被害者の今なお続いている被害に対し、大平前理事長の思いと行動力を継承し、救済を進めて参ります。また、命と健康を守り、安心して暮らせる社会をつくるという原点のもと、被害者支援によって得た知見を、HIV陽性者は元より、広く公共の福祉に寄与できるよう務めて参ります。

今後とも、変わらぬご支援、ご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。



武田 飛呂城 理事長

